

「いや～、・・・。」とTーくんは言い、 「これが〇〇か。」とT雅くんは言った



“衝撃の”一発ギャグの次はTーくんによるクイズだった。

「〇〇なのは、次のうちどれでしょう？」

実に正統的な出し物であり、皆、先ほど羽織ろうとした上着を鞆に戻して、落ち着いて心安らかに参加することができた。



その後、出し物は一段落し、高知を目指してバスは走るのであった。

途中2回ほどサービスエリアで休憩をし、3時間と少しで最初の見学場所“高知城”に着いた。バスを降りて「あ～、やっと着いた。」

「ここが高知城か。」

などと、子ども達が口々に話す言葉を耳にしながら、異変に気付いた。

おかしいのだ。声が。Tーくんの。

まるで風邪をひいた時のように、ときおり「ぐっ、ぐっ。」などと言いながらしゃべる声がかすれているではないか。

この後の展開が頭をよぎった。風邪や発熱の場合、Tーくんは・・・。まだ修学旅行は始まったばかりだというのに。

その時、またTーくんのかすれた声が聞こえてきた。

「いや～、しゃべりすぎて、喉がかれ



てしまいました。」



おー、そうであったのですか。なるほど、そりゃそうもなるでしょう。実は、バスのマイクが故障していたのである。そこで、Tーくんは、出し物のクイズをする時、皆によく聞こえるようにと大きな声を張り上げていた。途中、担任の二司先生が「だいじょうぶ？」と声をかけていたが、修学旅行を盛り上げるため、大声連続20問クイズという荒技に挑み、見事成し遂げていたのであった。



おかげで、マイクがなくても皆楽しむことができたのである。

その後、声はしばらくして元にもどった。故障していたマイクも直った。

そういえば、バスの中でT雅くんが、「これが都会か・・・」

「先生あそこを見てください。ほら、あそこです。家がいっぱい集まっています。家と家の隙間が30センチしかありません。」

などつつぶやきながら、観察したことを詳細にメモしていた。

この時点で、彼の“修学旅行のしおり”のメモ欄が、すでにいっぱいになってしまったことも、ここに付け加えておかなければならないと思うのである。



そんなこんなで高知城、坂本龍馬記念館、高知県立牧野植物園を見学して、17：30頃、ホテルに到着した。

<次号へ続く>